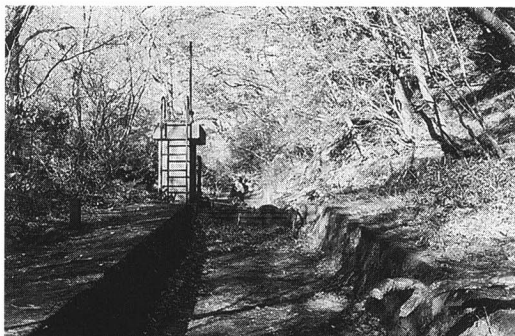
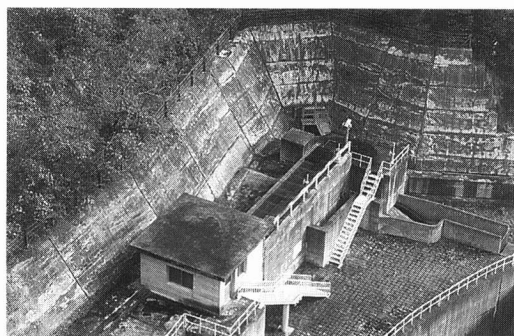


水げんのかく保



むかしの取り入れ口(岳大関^{だけおおぜき}地内)

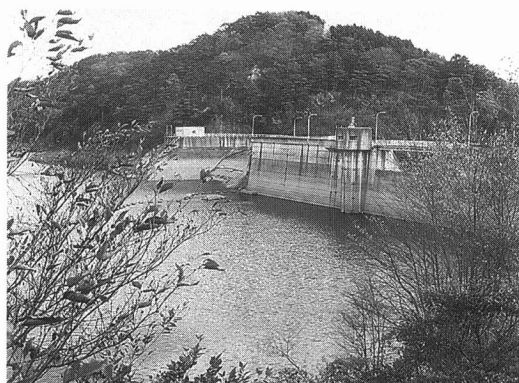
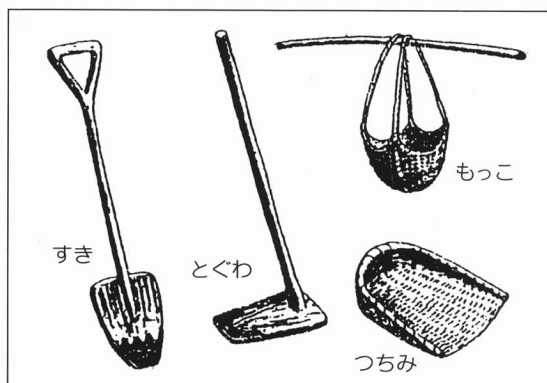


今の水げん(岳^{だけ}ダム)

〈根本さんの話〉

二合田用水のみなもとは、安達太良山中^{おおしみず}ふくの大清水・北清水^{きたしみず}とよばれるわき水です。むかしは、岳^{だけ}の大関^{おおぜき}というところ^{からすがわ}で烏川から用水^{みづ}ぼりに引きこまれていました。しかし、明治^{めいじ}以降、二合田用水^{いこう}が各地で本^おかくてきに農業用水として利用されるようになると、水が足りなくなりました。そこで、県^おや市は、1979年、6年のとし月と36億円をかけて岳^おに農業用のダム^おをつくりました。今では、市内、約700ヘクタールの水田^{ゆた}に豊かな水を流^{つづ}し続けることができるようになりました。

工事の道具



岳^{だけ}ダム

☆ 二本松市には、二合田用水のほかにもたくさんの用水があります。むかしの人々が、どのようにして用水をつくったか調べましょう。